

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第50号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発行 東北風景写真家協会 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-8 パルシテイ仙台1階F号 東北カラーデューブ株式会社榴岡店内 Tel 022-256-2141, Fax 022-256-2142 編集 進藤・阿部

東風季報第50号によせて 会長 竹内 正

東風季報第50号発刊おめでとうございます。協賛東北風景写真家協会と印刷することに成功。当初目標を大きく上回る100名を超す会員の参加を得ることが出来ました。しかし参加者の大部分が宮城県在住の方々であり、東北全域からの加入者の勧誘に苦慮しています。

自然破壊が拡大しているなか、東北の美しい四季の風景を記録して後世に残すことを図り、東北の風景写真家の底辺を拡大することを目的に、東北に賛同者の団体の設立を鈴木 登前会長の発案。渡辺、進藤、秋葉副会長、丸山前副会長・幹事長の賛同を得て、日本の風景写真家の第一人者であり絶大な人気と信頼の厚い竹内敏信先生に名誉顧問、東北の風景写真家、椎名亮介先生に顧問をお願いして、私も顧問に就任して東北風景写真家協会を発足。当初50名程度を目標に展開しましたが、これも鈴木前会長の発案で、多人数の参加者で人気のあった河北新報トータル主催(当時は近畿日本ツーリスト主催)の撮影ツアーの広告チラシに無料で当協会の名を記入依頼の折衝の結果、

宮城県北上町で町興しの一環として開催された、全国規模で東北最大の唯一の太平洋写真学校北上教室(学長竹内敏信先生、竹内会長が教授)に注目して協賛を申請、写真雑誌等に掲載されたことにより、当協会が全国的に知られることとなり、福島、山形、秋田、岩手県の会員獲得に寄与しました。震災後には被害を受けた、日本の原風景ヨシ原の復興に石巻NPO法人に協力して国交省への予算申請に際して、石巻イオンで当協会のヨシ原写真展を開催、署名運動を実施、1000名の目標にたいし2000名の署名を集めて予算獲得に寄与しました。大平洋写真学校の復興には当協会独自で、チャリティセミナーを実施し

て再開に向けての資金を、実行委員会に委託して積み立てた結果、予想を繰り上げ28年度から石巻市の予算も計上されて再開することが出来ました。当協会の運営に当たっては、総会に先がけて重要事項の説明は季刊発行の「東風季報」により会員に周知して賛同を得て実施されており、会員とのコミュニケーションに多大な功績があった結果の第50号であり、編集長を務めた秋葉副会長、編集担当の進藤副会長、阿部幹事、丸山前幹事長等の苦勞、努力の賜物と深く感謝いたします。

総会およびセミナー開催

第14回定期総会を左記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上で参加下さい。総会終了後、「風景写真」誌編集長石川薫氏をお招きしてセミナーを開催致します。今後の作品制作の一助にして頂ければ幸いです。

日時 令和2年1月26日(日) 受付午後1時00分

午後1時30分～2時40分

「100人展の作品に見る風景写真表現の今」

講師 石川薫氏

会場 日立システムホール

参加費 4,000円

※同封の出欠確認ハガキをご記入後12月28日(土)までご返送をお願い申し上げます

萩原俊哉氏セミナー終了 風景撮影 RAW現像の勧め

萩原俊哉氏を招いてのセミナーは、意味深長な12の設問。見方を変えればどれが正解とも言えないことにも、現地の状況や撮影条件を加味して分かり易く解説いただいた。対象をよく見、イメージをどう表現するかの大切さを知る。日ごろ無造作にシャッターを切ってきたことに気づかされた。

第一部「Oxでわかる風景撮影のキモ」

風景写真を示されて、例えば、「新緑を引き立てる『背景選び』とは?」、意表をついた問いかけ。話を伺って、なるほどと納得したり、そうかなあと戸惑ったり。構

第二部 RAW現像テクニック

作品づくりには、豊富なデータ量を保持しつつ、詳細な調整が可能なRAW現像が望ましい。RAW現像の基本的なテクニックについて伺った。汎用ソフトCamera RAWによる調整の実例で説明いただく。パラメータによる画像の変化をリアルに確認でき、微妙な調整の様子が理解できる。露光量やホワイトバランスの調整で作者の思いに追いついていく。カメラの補正機能でもできるが、さらに微妙な調整が可能となる。ハイライト・シャドウ調整により、白とびの抑制や暗部の諧調を取り戻す可能性もある。かすみの除去では、春霞やカスの調節など、従来難しかったことの解決にも近づいている。

写真撮影に想いを寄せその印象を表現するには、RAW現像での作品作りにはトライしてみよう。次の著書が良いガイドになる。

(秋葉健一記) Lightroomではじめて風景写真RAW現像テクニック 萩原史郎、萩原俊哉著 玄光社



セミナー受講

2020年第7回作品展 「美しい日本」の参加募集について

東北風景写真家協会創立14周年第7回作品展「美しい日本」の参加募集を行います。

- (1) 開催日程：2020年7月3日(金)～8日(水)
- (2) 会場：せんだいメディアテーク5階ギャラリー
- (3) 参加費：一人 10,000円

会員皆様のご意見、ご希望をお聞きしながら準備作業を進めて参りましたが、更にご意見ご希望のある方は近隣の幹事宛その旨をお伝え下さい。

日頃撮影されました力作のご準備をなされている事と思い、同封の実施要領をご覧頂き、参加確認ハガキをご記入後1月10日(金)までご返送をお願い申し上げます。

秋の信州撮影ツアー

10月23日快晴の仙台を出発。台風が近付いており天候が気になったが、初日・翌日と雨には合わず撮影することができました。標高2100mの白駒の池と雄大な苔の森、森に入る一面に苔が張り付いており、緑の絨毯を敷き詰めたようでした。

24日早朝撮影に5時出発。外はガスで真っ白、懐中電灯で照らしながら白樺湖畔へ。白樺の紅葉風景、朝霧との共演は最高の被写体。食後、御射鹿池へ。風もなく幻想的風景が良く映えていた。みんなが思い思いに三脚を立てシャッターを切っていました。私のカメラでは白馬を捕えられなかった。

志賀高原に向かう途中の千曲川は

最終日予定の雷瀧へは台風19号の影響で通行止めのため中止。代わりに善光寺近くの東山魁夷美術館見学で白馬のいる「緑響く」等を鑑賞。

撮影ツアーは作品の出来栄よりもやはり参加することに意義ありの感じがしました。

(阿部和之記)

冬の撮影会

冬の撮影旅行を下記の通り予定しております。

- 1、行先 木曾路・世界遺産：五箇山と白川郷
- 2、日程 2020年2月5日(水)～7日(金)

同封のチラシをご覧の上、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



五箇山のこきりこ踊り



一沼で撮影中

四季山が呼ぶ

～トレッキング写真展～
令和2年1月7日～19日(休館日14日)
10:00～17:00
定禅寺メディアステーションギャラリー (NHK仙台局1F)
青葉区本町2-20-1
【主催】フォトトレ仙台

お写真展

★ご連絡下さい
写真コンテスト及び公募展に入賞された方、写真誌に掲載された方、また、個人やグループで写真展を開催される方も、ご連絡下さい。(敬称略)

お知らせ

★写真コンテスト上位入賞者
●河北写真展 小椋山 裕行
●秋田県知事賞 小椋山 裕行
●宮城県芸術祭 写真公募展 芸術協会賞 小椋山 裕行
●角田市長賞 賞 裕行
●特別賞 善嗣
●大賞 善成
●才善 俊成

新規入会会員紹介

安藤 フキ子 太白区
平間 博 亶理町

重要データを守るには 渡邊 善夫

会員皆様には、会の運営に際しましてご協力・ご理解を頂き感謝申し上げます。

今回は、大事なデータを守る術のひとつの方法です。

会員の皆様方は来年度開催予定の東北風景写真家協会写真展に出席予定の作品創りの為、宮城県内外にお出かけになり、ベストシーンが数多く出ま上がっている事と思います。

又、出展作品の選定や画像処理等で楽しく充実した毎日をお過ごしのことと思います。大事な作品候補のデータをパソコンだけに記憶させている方々がまだ居るのではないのでしょうか？

パソコンのデータは、落下による破損や浸水などの物理的な要因や、誤って削除したり、別のデータを上書きしてしまったり、人為的な要因により消失してしまう可能性があります。

自分が撮影したデータや日記、メモ等は二度と戻らないかけがえのない大切なものだと思います。

機材やソフトは壊れたりしても代替品を購入すれば事が済みませんが、データを記録する機器（データは完全に消失してしまつたら代わりを購入することが出来ません）で、どんなデータでも消失は絶対に避けたいところです。

データの消失を防ぐ方法の一つが『データバックアップ』と思います。データバックアップとはデータを複製し外付けHDD等、別の場所に保存しておくことで、使用している機器にトラブルが発生しても、あらかじめ保存しておいたデータにより元の状態に戻すことが出来る方法です。HDDと次に何をバックアップするのか？

第一にご自身で作ったデータです。ソフトウエア（外部より購入したデータは、消失しても再購入出来ますが、自分で作成した書類や写真のデータは復旧することが非常に困難になります。又、現在使用中のOSやアプリケーションもバックアップが必要だと思います。

さて、バックアップ機器の1番目はハードディスク（HDD）（金属で出来た円盤に、磁気でデ

データを記録する機器）です。パソコンやサーバーに内蔵される記憶装置として、又バックアップデータの保管先として多く用いられているようです。ただし、ハードディスクは内部でデータを読み書きする為、衝撃や振動に弱いので、頻りに移動するようない使用方法は、避けて下さいとのこと。

2番目は、ソリッドステートドライブ（SSD）です。半導体のメモリ等の電子部品の中にデータを記憶する機器です。HDDと比べると容量当たりの単価が高額だが、HDDのように機械部品がないため、衝撃に強く持ち運び出来、データの読み書きが高速であるためノートパソコンを中心に様々な機器に採用されているようです。

3番目は、ブルーレイディスク（BD・DVD）です。円盤状になった樹脂層に、レーザー光でデータを記録する機器だそうです。音楽や映画等に良く使われているように容量あたりの単価が安価の為、

パソコンのバックアップとして採用されているようです。

4番目は、USBメモリです。手軽なデータ保存先として使用されることの多いUSBメモリ、小型で扱い易い一方で紛失や静電気等による破損も起きやすいため、慎重な取り扱いが必要とのこと。

5番目は、SDカード・CFカードです。パソコンやデジタルカメラに多く用いられている半導体を用いた記憶装置です。薄くて小さいので、保管の際には静電気や水分が紛失に注意とのこと。

結びに、普段なかなか意識して行えないバックアップですが、PCの故障やデータの消失は前触れなく突然起こります。面倒だからと先延ばししたり、忘れてしまうことが無いように、定期的なバックアップしておくことが大切だと思います。やっておけば・・・と後悔することが無いように、自分に出来る範囲・方法で無理なくバックアップを行い、不測の事態にも慌てず対処できるように備えておきたいものです。



いろいろなバックアップ機器

趣味写真の経緯・1 進藤 弘融

▼私が写真始めた経緯は東京・千住にて男ばかり6人兄弟の5男として生まれ育ちました。すぐ上の兄の趣味は音楽と写真。音楽はクラシック好きでアンプやレコードプレーヤーを揃え、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなどのレコードを楽しんでおりました。カメラはオリンパスの一眼レフで撮影した写真をよく見せて貰いました。

兄曰く「このカメラは小さくて持ち運びに便利で、写真の質も良くて気に入っている。」と話していました。兄は結婚して別居したので、私が当初手付けたのはオールドの方でした。勤めだしてお金が自由に使える様になるとセパレートアンプや大型スピーカーを買い揃え、クラシックは基よりジャズやロック、POPやラテンなど色々楽しんでいました。

▼写真は当時ネカフィルム時代の旅行やイベントでの撮影が主でした。勤め先の仕事の関係で墨田区を担当していた時、区内の得意先が小笠原の父島に店を出し、その関係で1度小笠原諸島に貨客船で出掛けたことがあります。夕方竹芝桟橋を出航し、朝目を覚ますと船のエンジンが止まっていた。客室はどうしたのか騒めいていると、漸く船内放送で「4台あるエンジンの一つが三宅島沖で停止した。他のエンジンでも行けるが、もしもう1台が故障すると漂流することになり戻ります。」との事で夕方に竹芝港に戻り、会社に行くこととしてここに居るのだ。船で出掛けたのではないのか？」と言われ、訳を話すと理解してくれました。

▼小笠原までは当時40時間を要し、翌夕再出港することになりました。何とか翌々日朝に小笠原に着いて得意先に挨拶、島内を回る予定で車にて出掛けましたが、今度は台風が近づいているので戻過ぎに帰港することになり、急遽港に降り、得意先に挨拶して乗船。

得意先には顔合わせで島内を詳しく見ることが出来ず、何か枚写真を撮って帰ってきました。その写真も風景が主になり、出張報告に添付する写真としては困ったものでした。

▼その後、昭和63年仙台支社秋田県担当として転勤になり、仙台にてキヤノンの一眼レフを購入しました。丁度一緒に転勤してきた支社長が写真好きで、支社長車にて秋田県の得意先を回る時、景色の良い場所に行くと運転手に停車をさせ、撮影して得意先回りを続けました。その写真も沢山

見せて貰い、ポジフィルム写真にはまり込んでいきました。その後横浜支社、新潟支社を経て平成11年11月退社。その折ヨドバシカメラ新潟店にて竹内敏信先生の関係する第1回日本海写真学校に遭遇し参加。初級コースで井村淳先生にご指導頂きました。

▼マイクログソフトによるWindows 7の延長サポートは2020年1月14日、終了となりました。以降はマイクログソフトよりセキュリティ更新プログラムの提供が行われなくなりました。

▼実は私のパソコンもWindows 7でしたが、10にグレードアップし、尚且つハードディスクをSSDに変更しました。立ち上がりも見違えるように早くなりました。もう一点良かったことは、今まで使用中のソフトをそのまま使える事です。新しくパソコンを購入した場合すべてソフトを購入するか、インストールする必要がありませんが、検討する価値があります。

▼委託した会社は「PC-FIX SASEBO」で佐世保にあり、価格も良心的でした。詳細ご希望の方は私迄ご連絡下さい。(阿部和之記)

風景写真とデジタル写真-2 デジタルカメラの現状と選び方 竹内 正

デジタルカメラの進歩は非常に急速に大幅に進歩しているのが現状です。

フィルムカメラの場合、四年に一回位でのモデルチェンジが普通でしたがデジタルでは年に数回新製品を発表するメーカーもあります。主にソフト面の改良により画質は勿論オートフォーカス、大容量の書き込み速度、転送速度はメディアの進歩と相まって大幅に進歩しており、速写性の高速度撮影にも、寄与して、良いこと尽くめでカメラの選定は大変困難になっています。

更に最近のミラーレスの台頭により非常に迷わされている人が多く、相談を受けることが多くなっています。

デジタルカメラはまだ発展途中です、現在使用中のカメラを先ず使いたすことが重要です。そのうえで買い替えが必要な場合は、フィルムカメラと違って、現在使用中のカメラ、レンズに固執しないで最新のソフト、機構よりは自分の使用目的に合った、簡単に確実に良い写真が撮れる機種を選定する、特にデジタルカメラの特徴は、手軽に手持ち撮影が出来ることであり、一番怖い手振れを防ぐ5軸5段階

(最近6段階)の手振れ補正機構の装着されている機種は夜景でも手持ち撮影が気楽に出来るので、要注目機種です。

デジタルはフィルムと違って拡大しても像の劣化が少ないので、小型軽量の機種を希望する場合、受光素子の大きい機種は必要なく全紙倍位までのプリントには問題ない、APSCを基準にマイクログフォーカスズの機種選定をお勧めします。

ミラーレスはボディは小型化していますが、受光素子が大きいとレンズが大型になり重くなります。サブカメラには携帯に便利なAPSCや1型のコンパクトカメラが、重宝します。

機械物はカタログスペックより機械の工作精度が問題であり、メーカーの選定も重要です。

編集後記

本季報は2007年創刊以来50号を重ねることになりました。竹内会長には、当協会発足の状況やその後の歩み特別に記していただきました。この間東日本大震災等を体験しつつも休むことなく発行できましたこと、会員皆様のご協力の賜物と感謝いたします。今後とも皆様のご投稿をお待ちしております。